

# ちよつとしい話

## ～ お香 ～

私達が毎日つとめる<sup>きやうもん</sup>経文の冒頭に出てくる偈文に「願我身浄如香炉 願我心如智慧火  
念念焚焼戒定香 供養十方三世佛」とあります。これは、<sup>ぜんどうだいし</sup>善導大師の「浄土法事讚」の中から  
抜粋されたものです。説明すると、「願わくは、この私の身体の清らかなことが、香炉のよう  
でありますように、願わくは、この私の心が、智慧の火のようでありますように、一念一念に  
戒と<sup>じまう</sup>定の香を焚いて、あらゆる世界に於いて、過去、現在、未来にわたって在します<sup>みほとけ</sup>御佛を  
供養いたします。」という意味です。皆様が、お寺の本堂にて<sup>ごんしほ</sup>嚴修される特別大法要に参加さ  
れる場合、本堂入り口に置かれている象の形をしている香炉を男は左足、女は右足にて<sup>か</sup>踏いで  
心身を清めてから入道するのです。私達は毎日生活をしていく中で十善戒を守る事は不可能で  
す。よく考えて行動しているつもりでも、自然に不浄な事をしてしまっているのです。毎日お  
仏壇にお灯かりを燈し、お線香を立て静かに座して手を合わせ、偈文の意味を頭に浮かべて称  
えて下さい。

- \* 戒：十善戒と言って、殺さない、泥棒しない、<sup>だま</sup>騙さない等十の戒があることです。
- \* 定：雑念を滅し心を静めた境地。
- \* 三世：過去、現在、未来、永劫の時間。

お香は、佛教の伝来552年に百済から<sup>くたろ</sup>仏像や経典と共に伝わってきました。お経の中に  
三宝に供養するには、衣、花、香の大切さが説かれています。お墓にはお線香が使われます。  
お仏壇やお寺参り葬儀の時などにはお焼香をします。この様なときに使われるお香を一般的に  
五種香と呼んでいます。五種香とは<sup>まから</sup>伽羅、<sup>じんこう</sup>沈香、<sup>びやくだん</sup>白檀、<sup>ちやうじ</sup>丁香、<sup>りゅうのう</sup>龍腦の五種類を混ぜ合わせた  
ものです。伽羅が香の中で最高級ですが、なかなか手に入りません。ですが多少の無理をして  
も、毎日が心身健康にして健全なる私であります様に仏様に対して、少しでも良質の線香や、  
お香を供えましょう。その<sup>きうくわん</sup>香薫が私達の「<sup>ろっこん</sup>六根」、即ち、<sup>め</sup>眼、<sup>みみ</sup>耳、<sup>び</sup>鼻、<sup>か</sup>舌、<sup>しん</sup>身、<sup>い</sup>意、全てを<sup>き</sup>清め  
てくれるのです。ですから、良質の「お香」が必要になるのです。

善入院油掛地藏尊